

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は理念について、大切なことやホームの目標など理解し全員に浸透している。理念達成に向けて、職員は共有化を図り部会などで通して唱和し意識づけを行っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の見やすい場所に理念が掲げられ管理者や職員がいつでも見られる状態になっている。また部会などでも唱和し理念達成に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には家族会や行事の参加時に話の中で伝えるようにしている。地域に向けてホームの特徴や趣旨が伝わるように推進会議の場や行事の参加時などでも話ができるようにしている。地域の実情に合わせて理解を広めるように工夫している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	年間地域の行事に参加させていただき商店街などの飾りつけなども一緒に行い気軽にコミュニケーションができる状態となっている。また近隣の方から手作りのものをいただいたり、花壇には花など植えていただいたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での行事参加などで、交流しコミュニケーションやなじみの関係づくりができています。また自主防災などにも参加させていただいている。ボランティアの方にも定期的に来ていただいている。	○ 地域活動への参加を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの見学や電話相談なども受け付けている。またボランティアの方や地域の方にもいつでも見学できるようにしている。施設内の一部分では地域のために使用できるようにもしている。(地域の会や懇談会など)	○	協議する時間を決めて内容を具体的に決め実践するよう にしていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は個々に評価の意味を理解している。一人ひとり評価することにより現場で支援できていない内容が明確となり新たな取り組みや改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にはメンバーがそれぞれ参加できるようにしている。その時に話した内容や問題点など部会を通して伝達し今後の課題として取り組んでいる。ご家族様との合同推進会議なども実施した。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	キャラバンメイト活動の報告やホームの現状などを市町村担当者と話し合う機会をつくることのできている。	○	市町村へ向けての情報提供や発信など年に1回から2回くらいできるようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	院外研修への参加や県の実践者研修での勉強などでも学び、また部内での年間勉強会でも学んでいる。	○	新人指導などでも取り入れてリスク管理と同様に研修内容を決めて実践していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束や虐待はしないことを全員理解している。また委員会などでも他の部署での取り組みや検討事例などについても学んでいる。また、観察を怠らないように異常を見つけたらすぐ報告できるような体制を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等に利用者の権利、義務が明確に書かれている。入居前にその内容を分かりやすく説明し利用者様やご家族様の不安や疑問点などを尋ね理解していただけようとしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内には意見箱を設置し、ご家族様が来所時にはご意見などないか声かけしている。ご意見、苦情あるときは早急に対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族様来所時、また定期的な電話で健康状態や近況報告している。感冒などで体調不良になった時はすぐにご家族に状態など連絡している。職員の異動についてもその都度ご家族に伝達している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、苦情や不満などを書いていただいている。口頭による場合でもその内容をそのまま苦情用紙に記入し報告及び改善している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会や日常の会話、申し送りノート(気付いた点、報告など記入)で職員の意見や提案書などを活用し、内容を伝え検討している。部会では個々の意見が反映され検討できるようになっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早出、遅出勤務があり、またそのつど柔軟な勤務体制をとり、利用者様の状況の変化、ケアの必要に応じている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に伴う人員配置に関しては、できるだけ早く異動職員に伝達している。また利用者様が混乱しないようにすることや業務がスムーズにできることなどを考えている。異動時には影響が最小限になるような関わりをしている。	○ 情報収集を早めに行い、訪問やコミュニケーションを通しなじみの関係づくりを築いていく。異動は早めに職員に伝える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全員参加型で、くもん学習療法の実践者研修を1年以上継続している。またリーダー研修も外部から講師により定期的実践研修している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内、外の研修などに参加しながら知識やケアの質の向上を図っている。また地域内での同業者との交流も研修参加を通して情報交換やさまざまな取り組み、意見などを聞いている。</p>	<p>○</p> <p>他のホームの見学やスタッフの交流などがあれば機会をのがさず参加していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場環境をよくするために、職員の話をよく聞き能力を発揮できるように支援している。また仕事以外でも交流の場を設けて相談やコミュニケーションなどを行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の能力が発揮できるように得意な分野でも力を出せるよう支援している。職員一人ひとりに広い知識を持ってもらうため情報提供を行っている。また職員も目指す目標を年度初めに記入し達成に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>各パートナーを決めて利用者様の精神的、身体的な面、ご家族様との関わりなどを重点においている。利用者様自身から訴え時その都度対応している。訴えができない方などもその方の表情や声の状態などサインを見逃さないように気を付けている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>各パートナー中心にご家族様とは、面会時や家族会時にはコミュニケーションを図り意見や要望なども聞くようにしている。不満や不安感が残らないように配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を反映できるようにスタッフ間で共有している。また必ず他スタッフ、ケアマネージャー、看護師などに相談し対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様やご家族様の方が不安にならないようにしている。パートナー選びなど考えてまずコミュニケーションをとりながらホーム内に早く馴染んでいただけることを優先と考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、教えてもらうことも多く支援するという意識をもたず接している。料理の話であったり知恵など工夫したことなど多くの経験があるためとても勉強となります。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	記録内容にはその方らしさや、日常の暮らしぶりがわかるように利用者様の様子などを記入して、ご家族にも伝えて同じ思いで支援をするようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や運営推進会議、クリスマス会などの行事に参加していただき交流ができるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方で会えない場合など、年に2回のはがき等を送付し交流がとぎれないようにする。	○	デイサービス利用者様との交流やホーム内2、3階の利用者様との交流など行っていく。また地域の行事や友人との交流などもできるように支援していきたいと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	くもん学習を行っているが、この事で利用者様同士の関わり合いが深まり、支えあい、思いやりも強く、職員もよい関係づくりを支援している。	○	くもん学習療法実施者を増やしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方には、お通夜や告別式などに列席させていただいています。残されたご家族様にはその後の様子などお伺いするようにしています。	○	それぞれのパートナーの役割として残されたご家族への支援なども継続し行っていくようにする。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でコミュニケーションやレクリエーション等を通して常に利用者様の希望や意見を聞き支援できる体制をとっている。またパートナーの役割の中にも提示している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の情報収集を職員間で共有化して利用者様が笑顔やいきいきと暮らせるよう支援していく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様一人ひとりのペースに合わせて支援するとともに、健康管理や状態の変化、把握などはスタッフ間で話し合い把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	パートナーが事前に利用者様の状態や変化などに気づきカンファレンスなどで話をして、問題解決や支援方法などを周知徹底している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、その方の状態に応じた随時の見直しを行っている。利用者様がいちばん困っていることや内容について優先的にケア実践していく。3ヶ月に1回の定期カンファレンスを実行し以前の状態と比べ特に注意をしてケアの統一をして、すべき内容については具体的に方法や手順を検討してケアに活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテ記録時に、利用者様の言われた言葉や行った内容などを記録し、ご家族様が来所された時には日常生活をどのように過ごされているか説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスでの行事やグループホーム同士での合同行事などを行い多機能性を活かした支援をしている。年間行事の中でホーム同士の交流の機会をつくり行き来しやすい環境を作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を行う時は利用者様の方々にも参加していただいている。町内会長、地域包括支援センター、町内会の方々にも参加していただき意見交換や情報の提供などを行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	お茶会や、行事に参加して地域の人々との触れ合いを楽しまれています。	○	他のケアマネジャーとのかかわりは今のところなく、事業所とのかかわりなども少ないため今後はかかわりが持てるようにしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の包括支援センターのスタッフに参加していただきホームの情報提供や実情など聞いていただくとともに、助言やご意見をいただき参考にしています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様が希望するかかりつけ医となっている。ご家族様の同伴が不可の場合スタッフが同伴している。歯科受診時は、通院可能な方はご家族様やスタッフが同行し受診していただいている。無理な方は訪問歯科診療を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師が定期的に往診に来られている。又、ご家族様が希望された場合などは希望に準じるような体制となっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師がいるため日常の健康管理や、医療的処置などもできるため異常の早期発見などに対する対応も早急にできる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	他の病院へ入院した際には、情報提供を行うとともに訪問などをし、利用者様が少しでも安心してできるようにご家族様と協力しながら支援できる体制をとっている。著しく認知症が悪化しないよう細かな内容についても伝達し連携をとっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方をご家族の方や医師など全員で方針を決め精神的、身体的両面より支援できる体制をとっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族様や利用者様の意向を踏まえ関係者間で話し合いながら穏やかに安心して過ごせるようケア、支援を行っている。ご家族様や利用者様の心理面にも働きかけて言葉かけを行っている。今後もターミナル期については知識やケアの充実が図れるように取り組んでいきたいと思う。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者に関しては、十分な情報が提供できるようにしている。環境なども変わるため状態が悪化しないようできるだけダメージを受けないように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様一人ひとりの性格を把握した上で、声かけ介助を実施する。個人情報保護法令にかかることに関しては書庫に保管し管理をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の時間帯に合わせた介護やケアを行わないように心がけている。利用者様の意見を十分取り入れてから実践している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望が反映できるようにしたいことや食べたいことなどお聞きしている。できるだけ月行事なども楽しく過ごせるようにその時の笑顔なども写真を撮ったりしている。できること、できないことを見極めて、利用者様のペースでの介護を心がけている。	○ 職員の業務に合わせてはいけないことを職員間で常に共有していくことが大切である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様の様子をありのままお伝えする。ご家族と同じ思いで支援をするようにしている。更衣介助は必要な方のみとしている。利用者様には自分で服を選んでいただき着用している。美容院でのカットやパーマを希望される方はそちらでもらうようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや食べたいものは日ごろよりお聞きしている。季節感を感じていただけるよう季節のものはできるだけ取り入れている。ダイニングテーブルに季節の花を飾り楽しく気持ちよく食事ができるよう雰囲気を作っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	高齢者の方の好む飲み物や食べたいものなどの希望を聞いて一緒におやつ作りを楽しんだりして食べていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様一人ひとりの排泄パターンを知り時間的に個別に誘導できている。プライバシーを配慮し羞恥心がないように介助している。排便管理も便秘などには十分気をつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様に入浴したい希望を聞き入浴したい日にできるように支援している。その日に入浴できない場合は別の日に実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中散歩やリビングなどでの活動を取り入れゆっくり安眠できるように支援している。活動やレクリエーションなどの場を設けて適度の疲労感や生活リズムを整えるなどの配慮を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の補助的なことや、洗濯物を取り込んだり、たたんだり、クッションカバーやボタン付けなどもしていただいている。	○	個々にできることが必ずあるのでそれを継続できるようにプランなどに入れて実践してもらえよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩に行ったときや、利用者様の希望する物などは購入できるようにしている。近くのスーパーなど利用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への買い物や戸外での散歩などを行っている。冬季においては頻度が少なくなっている。	○	少人数での外出支援、散歩などを計画的に入れて実践していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々にご家族様と出かけられ墓参りや実家に帰るなどしている。福祉大会への参加やドライブなども行っている。	○	個々の希望をお聞きし実現可能な場合は支援していきたい。またご家族様と出掛けられる機会なども作ってあげたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば補助してかけている。利用者様が直接話しされることもあったり、代弁して伝達していることもある。手紙や年賀はがきなどは、書ける方は一言でも書いていただき出すようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねて来られるように開放的となっている。来られた時も好きな場所でコミュニケーションを図っていただきゆくりと過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回の身体拘束委員会の開催により、虐待防止の取り組みや現場での状態など把握し問題点などについて協議し解決に取り組んでいる。院外研修などへの参加も積極的にしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関、2階出入口、居室などの鍵はかけないことを原則とし自由に行動できるようにしている。19時以降は防犯防止のため玄関の施錠はしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者様の所在確認は怠らないように注意を払っている。利用者様にも職員がいつも近くに居るということを意識してもらえるよう声かけや見守りを徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物品に関しては、職員同士、情報の伝達や周知を図り細心の注意をはらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どのような内容でも、職員はすぐにヒヤリハットや事故報告書などを通して事故の責任や原因、対応、対策などを考えケアの見直しやプランの変更など随時行うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回の研修参加を通して一人ひとり体験実習を行っている。	○	ホームでの勉強会を通して具体的に誤嚥時の対応や喀痰の除去の仕方など体験し勉強していく。(年間勉強会へ入れる)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域での自主防災への参加や推進会議などで災害に対する内容を取り入れ、利用者様の避難など支援してもらえるように話をしている。	○	計画を立てて取り組んでいく。(今年度の内容を計画していく)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護計画の中で、予測される事故などについて問題提示を行い、ご家族様などにも説明できるように対応策も含め伝えている。	○	症状変化に伴う細かな説明などを徹底していく。医師よりのインフォームドコンセントなどを行っていただく。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調管理については、日々のバイタルと状態変化などを必ず日勤のリーダーに報告し、異常時には母体病院へ連絡し早期に対応できている。	○	観察力や洞察力など職員の知識とともに全員が見極める力をつけていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、詳しい作用や内容などを職員は把握している。また状態の悪化や急変時に薬の変更、追加などあれば適時対応できるようにしている。その都度看護師に相談し行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて食事は繊維質のものを取り入れ食材やメニューを工夫している。おやつなども乳製品など出している。できるだけ自然排便をできるように、活動や散歩など取り入れ体を動かす機会も作っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施、口腔内の観察なども行い異常の発見や早期対応に取り組んでいる。義歯の交合性については衛生士と相談しながら管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、食事以外にも1日1000mm以上確保できるように補給している。合計し不足している場合などの時は勤務交替時などで申し送りをしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会や院外研修などで知識を向上させ情報の共有化を図り、早めに予防対策を行い準備やすぐに対応できる体制をとっている。	○	マニュアルの変更や追加などまた新しい情報などは職員に伝達しておく。シーズン前には物品などの準備も行って置く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に無駄がないように買い置きなどは減らし、季節には旬のものを出すようにしている。また食器やまな板などの消毒なども徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	わかりやすく案内を掲示している。	○	初めての方にはわかりづらいかも知れないのでまた意見なども取り入れ考えていきたいと思う。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には花を飾ったり、行事などの時は飾りつけをしたりして楽しい雰囲気や空間づくりをしている。また、だんごなどを一緒に作ったりしている。手の届く範囲に花を飾り、季節ごとの花を手にとられ眺められたりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングやダイニングで過ごされたりと自由にされている。ひとりがけのソファなどもあり、気の合う方と座られたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはできるだけ使い慣れたものをおかれたり、配置も利用者様が好きな場所に置かれている。利用者様が居心地がよくホッとされる場所であることと、安全であることは気をつけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度、湿度の調整は業務内容として実践している。特に冬場は感染症の予防も含め換気時間等の徹底をしている。冷暖房ともにタイマーや訪室時などこまめにチェックしている。夏季などは自然な風など通している。外気温との差がないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や風呂場、トイレなどに手すりをつけ利用者様の身体機能に合わせて使用している。洗面台の高さなども車椅子なども対応できるような高さになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を基本とし、本人ができることはしていただき、パートナーの情報などをカンファレンスや申し送りなどで伝達し支援できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の花の植え替えなどプランター栽培をしている。利用者様と一緒に花を買いに行き一緒に手伝いながらしている。また水遣りなども日課とし利用者様が実施している。1階の花壇などにも季節の野菜などを栽培し収穫して調理に利用して食べていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自立支援やその人の優しさを基本とし、職員は利用者様が生き生きと暮らせるように日々取り組んでいる。